

筆者の専門は中国の南北朝時代である。南北朝といえば日本史を思い浮かべる方が多いと思われるが、中国史にも南北朝時代がある。今から約1600年前、中国では南北に王朝が分かれ、華北は北方遊牧民が支配する領域となった。長安や洛陽など伝統的な中原の都が遊牧民の支配下に置かれたのは、中国史上初である。

少数の遊牧民が農耕社会を支配するようになる、政治的にも文化的にも衝突や変化が生じた。北朝最初の王朝である北魏王朝は3

北魏墓誌から見えるジェンダー

的な文化や制度を一気に漢族風に変化させるものであった。ちなみにこの時実施された均田制は、隋唐王朝を経て、律令体制を採用した日本では班田収授法となる。また、平城京の都城プランも、その源流は北魏の洛陽城にある。このように、遊牧民が創出した文化や制度が古代日本に大いに影響を与えたのは、実に興味深い現象ではないだろうか。

これら漢化政策の一つに、墓誌の流行があった。墓誌とは、身分の高い故人を称揚する文章を石に刻み、墓中に埋めるものである。秦漢時代から存在したが、大流行するのは北魏からである。筆者は北魏墓誌に刻まれた漢文をテキストマイニングし、当時のジェンダー（社会的に構築された性別）史を明らかにしようとして試みている。ジェンダー史研究に北魏墓誌を用いる利点は主に二つある。一つは墓誌には傑出した業績のない人物のものも含まれるため、文献史料と比べて幅広い属性の人物のデータを集めることができる点である。もう一つは北魏の特殊性である。北魏は儒教化を受け継ぐ漢族と、これと異なるジェンダー習俗を

もつ遊牧民とが複雑に融合した王朝であり、ジェンダー観に変化が起きたことが見込まれるからである。北魏墓誌の特徴語を抽出すると、遊牧民が漢族にかかわらず、女性は婦徳といった儒教倫理および本人の美貌や慎み深い性格に偏っていることが確認できた。北魏の遊牧民の女性といえは、デイズニアニメにもなったムーラン(木蘭)のように従軍する女性もいたが、そのような遊牧文化は一切反映されていない。また男性の描写は、王朝へ貢献した点を称賛する語句が顕著であった。これは漢文化の男らしさである。例えば、長幼の序を重んずる儒教倫理とは真逆の、若者を尊敬し老人を軽蔑する風潮は遊牧民の習俗として知られているが、このような遊牧文化を反映した価値観は墓誌にはみられない。

IT技術用いた 中国古代史研究

86年に建国され、398年に華北を統一すると、その約100年後に漢化政策を実施する。これは遊牧民



名城大学理工学部准教授
大知 聖子

おおち・せいこ 中国古代史。岡山大学大学院文化科学研究科博士課程修了、博士(文学)。

北魏墓誌急増の背景には、政権側の奨励があったと指摘されている。この点を踏まえると、漢文化において規範とされるジェンダーを描かせることで、従来の遊牧民の男女の役割分担を変化させようとしたと考えられる。いわば一種の文化大革命である。

古今東西、ジェンダーの役割分担はいつもさまざまに構築され、正当化されている。筆者はその形成過程を明確化することで、ジェンダーの虚構性を暴いてゆきたい。

